

「腓骨神経麻痺を発症させないために 一良肢位について看護師側、患者側の要因から考える一」へご協力をお願い

東京歯科大学市川総合病院整形外科では「腓骨神経麻痺を発症させないために 一良肢位について看護師側、患者側の要因から考える一」という臨床研究を行っております。この研究は腓骨神経麻痺を発生させない対策を立てる示唆を得ることを主な目的としています。そのため、大腿骨頸部、転子部骨折にて入院し治療を受けた患者さんの治療データを使用させていただきたいと考えております。

この研究は東京歯科大学市川総合病院倫理審査委員で審査され、病院長の許可を得て実施しております。

1、研究の概要

1) 研究の背景および目的

当病棟では下肢骨折患者に対し、手術前に臥床安静と下肢固定・下肢牽引による良肢位の保持を強いられることが多い。しかし高齢者の中には認知症を患っている方も多く、良肢位の保持の理解が難しい現状がある。良肢位を保てない患者においては、下肢が外旋位になり腓骨神経麻痺を起す可能性がある。腓骨神経麻痺を起こすと長期にわたり障害を残すため、患者の QOL の低下を招き社会復帰の妨げとなる。そのため腓骨神経麻痺を起こさないようにしたいと考えた。

2) 予想される医学上の貢献および研究の意義

腓骨神経麻痺の発症例看護師側・患者側の要因を検討し、その理由を明らかにすることにより腓骨神経麻痺を発生させない対策を立てる示唆を得るためにこの研究は意義があると考えます。

2、研究方法

1) 対象者

2015年1月から5月に市川総合病院6東病棟において大腿骨頸部、転子部骨折で入院した患者27名

2) 研究方法

患者要因の分析 腓骨神経麻痺を発症した例、発症しなかった例の比較検討を行い、相違点、また共通点を抽出し良肢位を保持できない理由について考察する。

3) 使用する情報

カルテから以下の情報を使用させていただきますが、あなたの個人情報は削除し、匿名化して、個人情報が漏洩しないように致します。

- ・性別・年齢・疾患名・麻痺・臥床安静期間・腓骨神経麻痺発症までの期間・牽引の有無・浮腫腫脹の有無・弾性包帯の有無・腓骨神経麻痺発症月・診療の指示が通じるか・危険行動の有無・寝返りができるか・下肢挙上の有無・睡眠剤使用の有無

4) 試料・情報の取り扱い

電子データの場合にはパスワードで制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報の施錠可能な場所に保存します。また、研究に使用した試料・情報は、研究の中止または研究終了後5年間保存させていただいた後に適切に破棄します。

5) 費用

この研究により、新たな検査や費用が生じることはございません。また、試料や情報を使用させていただいた患者さんへの謝礼等もございません。

6) 結果の公表

研究の結果については、学会や雑誌等に発表されることはありますが、個人が特定できるような情報が公開されることはなく、個人情報は守られます。

7) 研究計画書の開示

ご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができます。

あなたの試料・情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合は、お手数ですが、お申し出ください。ご了承いただけない場合でも、診療等の病院サービスにおいて患者さんへ不利益が生じることはございません。そのほか、ご質問等ありましたら、遠慮なくお問い合わせください。

<問い合わせ先>

〒272-8513 千葉県市川市菅野 5-11-13

東京歯科大学市川総合病院

6階病棟 看護研究責任者 後藤 春奈

電話： 047-322-0151